高圧進相コンデンサ

ニチコンの乾式高圧進相コンデンサは窒素ガスを充填し、SF_6ガスを全く使用しない新しいタイプのコンデンサで、地球環境に優しく、また万一の事故時や火災発生時に出火や類焼の心配の少ない難燃性を特長とした防災形のコンデンサです。特に多くの人が集まり防災が重要視される、受変電設備や、地下変電所などでのご利用をお奨めします。

防災形乾式 “GeoDRY®” オイルレス L=6 %対応品

特 長

● 地球環境にやさしいコンデンサです

排出抑制対象ガスの一つであるSF_6ガスに替え窒素ガスを充填した高性能、高品質品。火災に対する安全性が高く、環境にやさしい製品です。

● 高信頼性です

内部は自己回復性を有する蒸着電極方式を採用し、素子を樹脂コーティングして絶縁耐力を向上させた構造で高い信頼性を有します。

● 低損失です

誘電体に低損失のポリプロピレンフィルムを用いた省エネルギー形のコンデンサです。

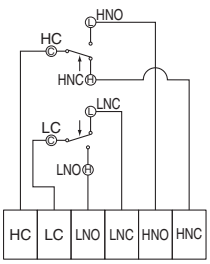
● 耐久性構造です

ケースは全溶接構造で、長期の耐用性・密閉性に優れた構造です。

● 保護接点付です

万一の内部故障発生時には、ガス圧の上昇を検知して動作する圧力上昇検出用保護接点（圧力上昇検出スイッチ）を装備しています。さらにこれにより電源から開放されなかった場合は、安全弁が動作してケース破裂を防止する安全性の高い製品です。
また、万一のガス漏れなどによる圧力低下に対しては圧力低下検出用保護接点（圧力低下検出スイッチ）を設けて警報できるようにしております。

圧力異常検出スイッチ接点



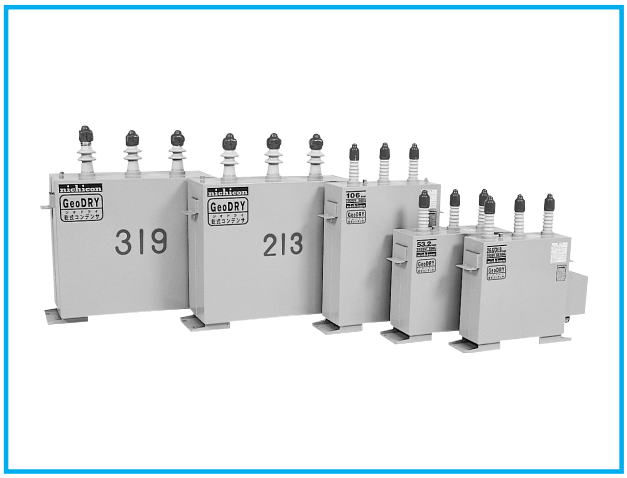
圧力上昇検出スイッチ接点
故障時 HC−HNO:ON
HC−HNC:OFF
（矢印は圧力異常上昇時作動方向を示します。）

圧力低下検出スイッチ接点
故障時 LC−LNC:OFF
LC−LNO:ON
（矢印は圧力異常低下時作動方向を示します。）

接点容量	圧力上昇検出	HC−HNO:ON	HC−HNC:OFF
	圧力低下検出	LC−LNO:ON	LC−LNC:OFF
	AC 250 V	1.0 A	1.0 A
	AC 125 V	3.0 A	2.0 A
	DC 100 V	0.1 A	0.05 A

圧力上昇検出スイッチの接点は、遮断器・開閉器の引き外し回路へ必ず接続してご使用ください。

ご注意
- 万一のガス漏れを検知するため、圧力低下検出スイッチの接点は遮断器・開閉器の引き外し回路、または警報回路へ接続してご使用ください。
- 接点はNO（常時開路）、NC（常時閉路）のいずれも使用できます。また、圧力異常検出スイッチの端子は上図のように端子台に接続していますので、端子台より制御線を引き出してください。圧力スイッチ破損の原因となりますので、保護箱は取り外さないでください。



規格・性能

設置場所	屋内専用、標高1000 m以下
周囲温度	−20〜+50 ℃ （24時間平均45 ℃以下、1年間平均35 ℃以下）〔温度種別B〕
最高許容電圧	電圧倍数 / 許容印加時間 1.10 / 24時間のうち12時間以内 1.15 / 24時間のうち30分以内 1.20 / 5 分以内 1.30 / 1 分以内 ただし、1.15倍を超える電圧の印加は、コンデンサの寿命を通じて200回を超えないものとする。
最大許容電流	定格電流の130 % （ただし、容量の実測値が容量許容差内でプラス側のものは、その分だけ更に増加を認める。）
容量許容差	定格値に対して− 5 〜+10 %（at 20 ℃） （任意の2端子間の容量の最大値と最小値との比は1.08以下）
損失率	0.05 %以下（at 20 ℃、定格電圧）
温度上昇	20 K以下（at 35 ℃、定格電圧）
放電特性	端子開放後、その残留電圧を5分間で50 V以下にします。
絶縁強度	6600 V：22 / 60 kV　3300 V：16 / 45 kV
塗装色	マンセル　5Y 7/1色
保護接点	保護接点付（圧力異常検出スイッチ）、安全弁付
準拠規格	JIS C 4902-1（2010）

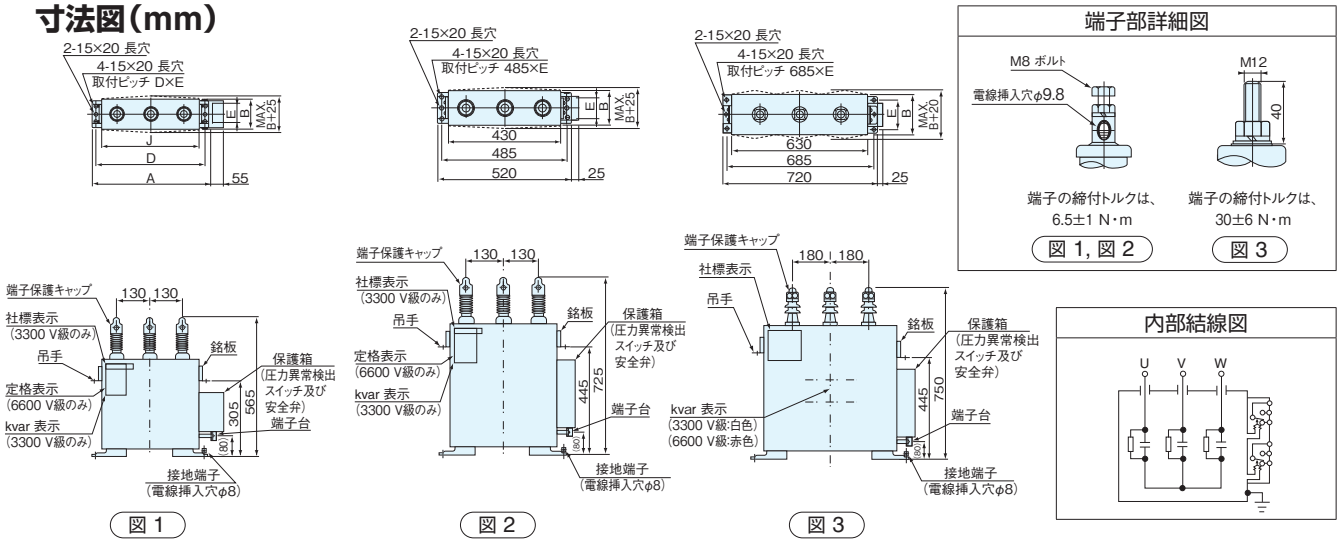
防振ゴムをご使用される場合は、13頁表の品番にてご用命ください。

nichicon

高圧進相コンデンサ

防災形乾式 “GeoDRY®” オイルレス L=6 %対応品
10～300 kvar（6600 V, 3300 V）

寸法図（mm）



定格寸法表

L=6 %対応品　三相　屋内専用　放電抵抗内蔵　保護接点（圧力異常検出スイッチ）・安全弁付・予備銘板付・温度種別B

回路電圧 (V)	定格電圧 (V)	周波数 (Hz)	定格設備容量 (kvar)	定格容量 (kvar)	品番	定格電流 (A)	寸法 (mm) A	B	D	E	J	質量 (kg)	図
6600	7020	50 / 60	10 / 12	10.6 / 12.8	AF702120KMA1	0.875 / 1.05	475	130	440	70	385	26	1
			15 / 18	16.0 / 19.1	AF702190KMA1	1.31 / 1.57							
			20 / 24	21.3 / 25.5	AF702250KMA1	1.75 / 2.10							
			25 / 30	26.6 / 31.9	AF702310KMA1	2.19 / 2.62							
			30 / 36	31.9 / 38.3	AF702380KMA1	2.62 / 3.15							
		50	50	53.2	AF702530KHA1	4.37	520	160	485	90	430	31	1
			75	79.8	AF702790KHA1	6.56	—		—		—	40	2
			100	106	AF702101KHA1	8.75						44	
			150	160	AF702161KHA1	13.1		230		140		73	3
			200	213	AF702211KHA1	17.5							
			250	266	AF702261KHA1	21.9		285				90	
			300	319	AF702311KHA1	26.2		300				96	
		60	50	53.2	AF702530KJA1	4.37	520	160	485	90	430	31	1
			75	79.8	AF702790KJA1	6.56	—		—		—	40	2
			100	106	AF702101KJA1	8.75						42	
			150	160	AF702161KJA1	13.1		230		140		73	3
			200	213	AF702211KJA1	17.5							
			250	266	AF702261KJA1	21.9		285				90	
			300	319	AF702311KJA1	26.2							
3300	3510	50 / 60	10 / 12	10.6 / 12.8	AF352120KMA1	1.75 / 2.10	475	130	440	70	385	26	1
			15 / 18	16.0 / 19.1	AF352190KMA1	2.62 / 3.15							
			20 / 24	21.3 / 25.5	AF352250KMA1	3.50 / 4.20							
			25 / 30	26.6 / 31.9	AF352310KMA1	4.37 / 5.25							
			30 / 36	31.9 / 38.3	AF352380KMA1	5.25 / 6.30							
		50	50	53.2	AF352530KHA1	8.75	520	160	485	90	430	31	1
			75	79.8	AF352790KHA1	13.1	—		—		—	40	2
			100	106	AF352101KHA1	17.5						44	
			150	160	AF352161KHA1	26.2		230		140		73	3
			200	213	AF352211KHA1	35.0							
			250	266	AF352261KHA1	43.7		285				90	
			300	319	AF352311KHA1	52.5		300				96	
		60	50	53.2	AF352530KJA1	8.75	520	160	485	90	430	31	1
			75	79.8	AF352790KJA1	13.1	—		—		—	40	2
			100	106	AF352101KJA1	17.5						42	
			150	160	AF352161KJA1	26.2		230		140		73	3
			200	213	AF352211KJA1	35.0							
			250	266	AF352261KJA1	43.7		285				90	
			300	319	AF352311KJA1	52.5							

(注) 1. 本コンデンサは必ずL=6 %の直列リアクトルと組合わせて使用ください。
2. 定格設備容量とはコンデンサと直列リアクトルを組み合わせた設備の定格電圧および定格周波数における設計無効電力を示します。（ただし、定格設備容量は銘板には表示しません。）
3. 本コンデンサを2台以上併置使用される場合はコンデンサの側壁面の間隔を106 kvar以下は80 mm以上、160 kvar以上は90 mm以上離してください。
4. キュービクル等にご使用の場合は、通風を良くして夏季最高温度時においてもコンデンサの周囲温度が50 ℃以下（24時間平均45 ℃以下）となるようご考慮願います。
5. 端子部に力が加わらないよう、結線はフレキシブルな電線を使用してください。（銅バー等による直接結線は行わないでください。）
6. 接地端子の接続は、電線をM8ボルトで確実に締付けてください。締付トルクは、6.5±1N・mです。